新宗連スローガン
信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2025年（令和7年）
8月29日
第1153号

発行所
新日本宗教団体連合会
（略称 新宗連）
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5551（代表）
（03）3468－5588（編集）
大阪事務所 〒550-0006
大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

8・14平和学習会 2025

戦争体験学び 分かち合う

3011日 青年平和式典へ向け心づくり

新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮本泰克委員長）は8月14日午後2時から、東京都杉並区の立正佼成会「大聖ホール」で、「8・14平和学習会 2025」を開催した。映像作品や戦争体験の講演を通じて平和の尊さを学び合った。

学習会に先立ち、宮本泰克委員長ら代表者一行は、東京都千代田区の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑を参拝し戦没者に慰霊と供養の誠を捧げ、絶対非戦を誓った。

今回の平和学習会は、終戦の日の前夜にあたる8月14日夕刻に、新宗連青年会が毎年開催してきた「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」（旧通称「8・14式典」）の精神を受け継ぐかたちで企画されたもの。同式典は第60回の節目を迎える今年から、新宗連青年会結成日の11月26日付近に開催時期を移し、式典通称も「青年平和式典」へと改めた。

終戦80年の年にあたり、新宗連青年会ではタイや沖縄、広島、長崎など国内外で慰霊と学びを重ねている。その流れを受け、東京を舞台に「青年平和式典」（今年は11月30日開催）へ向けた心づくりを行う機会として、学習会を実施した。

当日は『東京空襲ってなに?』（東京大空襲・戦災資料センター）と題する映像作品を上映。続いて、「私の戦争体験―東京大空襲」と題し、立正佼成会墨田教会の高橋秀夫氏が講演を行った。

高橋氏は8歳の時に体験した東京大空襲（1945年3月10日）を振り返り、「あの晩は空が真っ赤になり、焼夷弾が雨のように降ってきた。兄に手を引かれ、火の手のあがっていない方へ必死に逃げた」と回想。当時、神社にたどり着いたことで命を拾ったが、自宅は跡形もなく焼失したと語った。また、「逃げ遅れた母子が黒焦げになって横たわっていた光景を見た時、最初は〝かわいそう〟と思ったが、家に着く頃には心が麻痺して何とも思わなくなっていた」と語り、幼い心に刻まれた戦争のむごさを静かに伝えた。

さらに、終戦後は福島県にある母方の実家で約3年間を過ごしたものの、東京に戻ってからは食べ物に困る日々が続いたこと、家族全員が生き延びたことを「奇跡」と感じ、「いただいた命を大切に使わなければならない」と訴えた。

結びに高橋氏は「30代まで先祖を遡れば10億人以上の命につながっている。その一人でも欠ければ今の自分はいない」と述べ、人命の尊厳を強調。「ご先祖さまのおかげで皆生かされている。殺し合いは絶対にしてはならない」と力強く語った。

質疑応答では、参加者から「何を学び、何を次世代へ伝えればよいのか」「戦争を未然に防ぐには」といった質問が寄せられ、高橋氏は「信仰心に基づく行動」「言葉より実践」「相手の気持ちに立った行動の大切さ」などを語った。

この後、参加者はグループに分かれて語り合い、自らの平和観や宗教青年としての使命について考えを分かち合った。

高橋氏が東京大空襲、戦後の体験を語る

終戦80年に寄せて

青年平和式典 先師先達の思いを継承

未来の平和実現に向けた祈願と行動へ

新宗連青年会委員長 宮本泰克

新宗連青年会は1961（昭和36）年11月26日に結成され、翌年4月、千鳥ケ淵戦没者墓苑で「第1回戦没者合同慰霊並びに平和祈願式典」を開催しました。第3回（1968年）から毎年8月14日に開催され、「8・14式典」の通称とともに親しまれてきました。

第60回を迎える本年から、式典の開催日時を青年会結成日に近い11月末の日中に変更します。人間で60歳といえば還暦ですので、改めて原点に返るタイミングともとらえています。近年の猛暑や天候不順、終戦記念日前の警備強化などの影響もありますが、これまで様々な意見をいただき、青年会で議論を重ねてきた結果です。どうして日時を変更したか―というご指摘を真摯に受け止めながらも、この変化をきっかけとして、どう進んでいくか―をしっかりと継続的に議論して参ります。

私たち宗教青年は、先師先達の思いをしっかり受け継いでいくことが何よりも大切と考えております。歴史を重ねてきた先生方の思いを一番に考えながらも、今の時代を生きる青年達の思いもしっかりと受け止め取り入れて参る所存です。

8月15日は象徴的な日でございますが、戦争中は連日、犠牲者が出ていました。この日の前後には戦争についてメディアや諸団体の活動が活発になり、私も思い出したように心を向けますが、本来はいつでも心を寄せるべきなのにと日々内省しております。また、「80年前の慰霊を続けることの意義を学んでいるか、戦争犠牲者の御霊が望む慰霊ができているのか。未来を生きる青年は、今も続く世界の戦争・紛争や国内の社会問題、苦しんでいる人々に目を向け、行動することが必要ではないか」というような声もありました。

そんな中、8月14日という時期は先の大戦に思いをいたしながらも、式典が11月開催になることを契機に、そこだけにとらわれず、未来の平和実現に向けた祈願と行動に、より目を向けていくことが可能となるのではと考えております。

これからも日々心を向け、「青年平和式典」という新しい通称に相応しい内容を充実していくことができればと願っております。

先の大戦とその犠牲者のことを忘れず、慰霊を続けていくことはとても重要です。「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」という正式名称と軸を大切にこれからも邁進して参ります。（談）

千鳥ケ淵墓苑を参拝（14日）

第13回青少年育成セミナーⅡ（長崎）

資料館を見学、慰霊祭参列

新宗連青年会は8月8日、第13回「青少年育成セミナーⅡ（長崎）」（「栞」参照）を長崎市で開催した。同セミナー年間テーマ「先の大戦」への理解を深めるため、長崎原爆資料館の見学と「第53回原爆殉難者慰霊祭」に参列した。

参加者は午後3時から長崎原爆資料館を見学。非人道的な被害の記録や展示に向き合い、原爆被害の恐ろしさを痛切に学んだ。この後、原爆落下中心地公園での「原爆殉難者慰霊祭」に参列した。同慰霊祭は長崎県宗教者懇話会の主催。式典は午後6時半から、天理教、カトリック、日本聖公会、金光教などによる諸儀式が執り行われた。「平和の灯」献上では新宗連青年会の宮本泰克委員長を含む委員と参加者が行った。

セミナー参加者からは「資料館を見学し、核廃絶の強いメッセージを感じた」「核廃絶や世界平和の実現に向け、小さい一歩でも自分にできることを考えるきっかけになった」との声が寄せられた。

原爆殉難者慰霊祭で「平和の灯」を献じた

広島で第40回慰霊・平和祈願式典

中国連盟

新宗連青年会中国連盟は7月20日午後5時から、広島市中区の広島平和記念公園内の「原爆供養塔」前の広場で「第40回原爆犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」を営んだ。新宗連青年会広島県委員会では1982（昭和57）年から毎年夏に慰霊供養を行ってきた。

式典では新宗連青年会の宮本泰克委員長の「来賓あいさつ」、立正佼成会の青年部員による「献花」、松緑神道大和山代表者による「献水」に続き、NPO法人・ヒロシマ宗教協力平和センター（HRCP）の岸田弘子さんが自らの被爆体験を語った。

続いて7教団の代表者が原爆犠牲者に慰霊の誠を捧げ、絶対非戦の誓いを新たにした。この後、参列者全員で1分間の黙祷を捧げ、立正佼成会の青年部員による三線、アコーディオン、フルートの伴奏で唱歌「ふるさと」を合唱、閉式した。

沖縄に代表団を派遣

新宗連青年会は沖縄戦の組織的戦闘が終了した「沖縄慰霊の日」に合わせ、6月22～23日に代表者を沖縄に派遣した。22日には南風原町の南風原文化センターを訪れ、沖縄戦に関する資料と旧陸軍病院壕を見学。翌23日の午前10時前、一行は糸満市摩文仁の平和祈念公園で戦跡を参拝。この後、県主催の沖縄全戦没者追悼式に参列した。

酒々抄

今年8月に思う二つの事

災害級の酷暑、スポーツ出来る有り難さ

近くに「宇津木スタジアム」というソフトボール場がある。

由来はもちろん、功労者宇津木妙子、麗華両氏からとったもの。国際試合も行われるので、一度観戦したいと思っていたが、先日オーストラリア代表との強化試合があるというので出かけた。しかし生憎、暑さのため中止となってしまった。隣の練習場で上野由岐子選手の所属するチームが練習していたのでしばらく見学した。炎天下の中、必死に練習する姿、そのレベルの高さにビックリしてしまった。

そんなかに二つの事を思った。まずは、災害級とも思えるような酷暑。この原稿を書いている数日前、群馬県伊勢崎市で日本記録を更新41・8度まで上がった。世界的に地球温暖化が叫ばれて久しいが、日本では夏の日中、外に出られなくなってしまうのかと危惧している。甲子園大会も様々な工夫を凝らしているが、昔はこうだったという常套句は通じない気がする。何しろ室内を快適にするために、外に熱気を出しているのだから致し方ないのか…。

もう一つは、スポーツが出来る有り難さだ。私は見るのもするのも大好きだ。（もっとも最近は体力の衰えをひしひしと感じているが…）。世界では、至る所で戦火が続いている。遊びやスポーツに夢中になる年頃なのに、やせ衰えた子供たちの映像を見ると本当にやるせない。一日も早い解決を心の底から祈る。8月、日本にとっては、平和を改めて考えさせられる月だが、平和であるからこそスポーツが楽しめる事を実感する。

ルールの修正はどの競技でもあるが、そのルールに則り正々堂々とプレーする姿は誠に美しい。もちろん対戦相手に闘争心を持つことは必要不可欠であるが、試合が終わればお互い同じ競技の向上を目指す者同志、健闘を讃え合う姿もまた素晴らしい。特にラグビーでは試合終了のことを「ノーサイド」と呼称するのがこれまた素晴らしい。

（新井光興・救世真教会長）

靖国神社の政治利用に対する意見書を提出

30 7月日 信教委 政治委

新日本宗教団体連合会（新宗連、石倉寿一理事長）の信教の自由委員会（信教委）の鈴木裕治委員長と、政治委員会（政治委）の力久道臣委員長は7月30日午後、東京都千代田区の自由民主党本部を訪れ、石破茂・内閣総理大臣宛ての「靖国神社の政治利用に対する意見書」を、自民党組織運動本部の小渕優子本部長に手渡した。

意見書では石破総理や閣僚による靖国神社への公式な関与が「信教の自由」および「政教分離」の原則に照らして再考されるべきと主張。具体的には、石破総理が昨年10月と今年4月の例大祭において、「内閣総理大臣」名義で真榊を奉納した事例を挙げ、この行為が特定宗教への援助や助長に該当し、他宗教や無宗教の立場にある人々の「信教の自由」を侵害する恐れがあるとの懸念を示した。また、参拝の様子をSNS等で発信する行為についても、宗教行為を政治的に利用するものと指摘した。

同日午後には、衆議院第一議員会館の会議室にて国民民主党の古川元久代表代行および榛葉賀津也幹事長に対し、玉木雄一郎代表宛ての意見書を手交。また、立憲民主党本部では野田佳彦代表に同意見書を提出。日本維新の会の吉村洋文代表宛ての「靖国神社の政治利用に対する意見書」は翌31日に郵送した。（意見書全文は新宗連HPに掲載）

小渕本部長（右）に総理宛ての意見書を手交する鈴木委員長（中）と力久委員長（左）

靖国神社―
石破首相は自民党総裁名、私費で玉串料奉納

15日、石破首相は靖国神社には参拝せず、「自民党総裁」の肩書で玉串料を私費で納めた。同日参拝を行った閣僚は小泉進次郎・農林水産大臣、加藤勝信・財務大臣。

《今号の紙面から》
〈2面〉 新宗連企画委員会「臨時学習会」LGBTQを学ぶ、新宗連青年会「ユースフォーラム2025」
〈4面〉 終戦80年特集―加盟教団の平和祈願祭・慰霊式典等、保松秀次郎・千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会理事長談話。
（次号発行は10月下旬の予定です）

栞（しおり）

青少年育成セミナー

「青少年育成セミナー」は新宗連青年会結成50周年（2011年）の際に出された「宣言文」の具現化として、2012年度から、「『国民皆信仰』～『真の平和を生みだす』青年リーダーの育成」をメインテーマに掲げ、日本各地、多様な内容で毎年開催されてきた。第10回（2021年）の節目に、これまでの振り返りを行い、今後のあり方を継続的に議論した。この結果、終戦80年にあたる本年から3年間、「戦争と平和」を共通テーマとし、本年は「先の大戦」をサブテーマとして、4月に「第13回青少年育成セミナーⅠ」を広島で、原爆の学びと慰霊のプログラムで行った。

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価 各巻3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
Tel 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03(6273)7946 FAX03(3518)0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための"人生の道しるべ"
老春謳歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著 パーフェクトリバティー教団第二代教祖が、宗教家としての悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

◉緑風出版◉
◉この秘策で生き残れ！ お金がなくともこれで安心！
しぶとく生き残る秘策77
太田哲二 2200円
◉物ばかりが値上がり、手取りの所得は少しも増えない。僅かばかりの年金では老後の生活はますます厳しくなる。どうすればいい？ 所得税や住民税節約法、医療保険や介護保険の賢い利用法、公的年金活用法など、しぶとく生き残るための秘策77！ お金がなくともこれで安心！
【現在Amazonへは出荷停止中です】
〒113-0033 文京区本郷2-17-5/税込
☎03(3812)9420 www.ryokufu.com/

鉄舟ゆかりの谷中全生庵・平井正修住職が若者たちに贈る人生のエール。
平井正修・著
〈わたし〉を捨てる。
山岡鉄舟に学ぶ「無敵」という生き方
世間の常識に縛られながら承認欲求も満たしたい。けれど自分に自信がもてない……現代の私たち。山岡鉄舟が唱えた「無敵」の思想を手がかりに、主体的に生きる〈わたし〉を呼び覚ます！
四六判／152頁 定価1760円（税込）
佼成出版社
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
https://books.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
『本願寺新報』の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄縁社会」となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」にも、同根の原因があることを洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

ハーベスト社
東日本大震災後の宗教とコミュニティ
星野英紀・弓山達也編 本体価格7200円＋税
東日本大震災後の福島県いわき市と相馬地域のコミュニティの再建における宗教の役割（避難場所としての宗教施設、宗教教団や宗教者の動向など）を解明する。
療術から宗教へ
世界救世教の教団組織論的研究
隈元正樹著 本体価格3000円＋税

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道
―わたしたちが核戦争の加害者とならないために―
世が平和ボケにあろうとも、「時すでに遅し」と後悔しないために、平和憲法の真価を見直す素養まで捨てるわけにはいかない。
●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6
文芸社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
https://www.bungeisha.co.jp
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-29-9625、ネット書店まで

「すべてのいのちを尊ぶ世界」実現推進事業
LGBTQへの理解と取り組み学ぶ
新宗連企画委員会 臨時学習会 2回にわたり開催

新日本宗教団体連合会(新宗連)企画委員会(田澤清喜委員長)は、6月26日と7月10日、午前10時から、東京・代々木の新宗連会館を会場にオンライン併用で「第33期臨時学習会」を開催した。今回の学習会は「すべてのいのちを尊ぶ世界」実現推進事業の一環として、LGBTQへの理解を深め、今後の取り組みを検討することが目的。

6月26日の回では、認定NPO法人「ReBit」代表の藥師実芳氏が講演した。

藥師氏は性的少数者が生涯にわたり直面する孤立や差別の深刻さを指摘。特にLGBTQの子どもや若者の約7割がいじめを経験し、過去1年のうち10代の2人に1人が「死にたい」と考え、5人に1人が自殺未遂を経験しているという実態を紹介した。さらに、学校や家庭のみならず、職場でも約7割が困難やハラスメントに直面し、内定取り消しといった差別事例も報告された。

藥師実芳氏

加えて、福祉や医療の現場でも課題は多いと強調。行政や福祉サービスの利用時の8割が困難やハラスメントを経験し、医療の場面で同性パートナーがケアの担い手だとしても法的に「家族」として認められず、病状説明や集中治療室での面会等ができない事例があると指摘した。高齢期には介護手続きに伴う法制度の制約が障壁となり、結果として孤立を生むという矛盾点があると語った。

また、職場でのアウティング(本人の許可なき性的指向・性自認の暴露)や、同性カップルへの福利厚生の不適用など、働き続ける上での課題が依然として多いことを明らかにした。

一方、企業が多様性を尊重する取り組みとして、「PRIDE指標」が普及し、取得企業は2016年の79社から2024年には866社に拡大している現状を踏まえ、「制度整備だけでなく、一人ひとりが理解を深め、誰もがAlly(アライ)(LGBTQを理解し、支援する人)として行動することが重要」と呼びかけた。

最後に、当事者からのカミングアウトには「話してくれてありがとう」と受け止め、アウティングを避ける姿勢や、SOGIハラスメント(性的指向・性自認への嫌がらせ)への具体的対応(制止、通報・報告、話題転換、避難所となる)を一例に挙げ、アライとしての一歩を示した。

「居場所としての宗教」をめざして

7月10日の回では、港区議会議員でLoohcs(ルーク)株式会社代表取締役会長の斎木陽平氏が講演した。

斎木氏は宗教とLGBTQの双方が社会で偏見や孤立感を抱えやすい点に触れ、「宗教界が孤立する人々の居場所となり得る」と強調。自身が17歳で同性に好意を抱いたことからセクシャリティと向き合い、家族へのカミングアウトに至るまでの葛藤を語った。誰にも打ち明けられない孤立が、自死の危機につながるとし、「悩みを分かち合える場として宗教が果たす役割は大きい」と訴えた。

斎木陽平氏

さらに、「5~8%はLGBTQの人」と説明。安心して相談できる環境づくりは組織の強みと訴えた。

加えて、差別的言動を防ぐ法整備の必要性や、ポリティカル・コレクトネス(差別的な表現を避け、全ての人に平等に接しようとする考え方)の視点を提示。宗教団体においても正確な知識と理解の共有が不可欠であり、過度な非難には慎重であるべきと主張した。

また、特定非営利活動法人東京レインボープライドが掲げる「らしく、楽しく、誇らしく」というミッションは宗教にも通じる理念と強調。哲学者・西田幾多郎の『善の研究』を引用し、「多様な価値観が共存する普遍性こそ宗教の本質であり、人は皆つながっている」との考えを示した。

質疑応答では、LGBTQへの理解を深める議論が交わされた。

妙智會と西本願寺の祈りの実践を学ぶ
首都圏総支部

首都圏総支部(本山一博会長)は7月18日午後2時から、新宗連会館で「教化活動懇談会」をオンライン併用で開催した。妙智會教団理事の鈴木裕治氏と、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の築地本願寺副宗務長の東森尚人氏を迎え、「祈り」の実践について学んだ。

鈴木氏は妙智會教団の「祈り」について、平和や自然災害、厄除け、新生児の健やかな成長を願う祈願など多様な実践を紹介。「合掌は平和の姿」という宮本丈靖大導師の言葉を引き、祈りの姿勢こそ平和実現の象徴と位置付けた。

また、人だけでなく、台風や病気、車など物や現象にも、法名(戒名)を付け「成佛していただくという発想で、法華経による供養をしている」と解説した。

さらに国際NGO「ありがとうインターナショナル」が昨年11月、アラブ首長国連邦アブダビで開催した「子どものための宗教者ネットワーク(GNRC)第6回フォーラム」について報告し、「折り鶴を通して会員の思いを中東に届け、世界に広がった。祈りがあればこそ成し得た活動」と結んだ。

一方、東森氏は浄土真宗の「他力本願」について、「信者の努力(自力)で救われるのではなく、阿弥陀仏の力(他力)によってすべての人間が極楽浄土に生まれ変わり、成仏できるという考え」と解説。願いごとを「祈願」として自力的に解釈することは、自己中心的な考えに陥るため否定されていると説明し、「祈る」ではなく、「念じる」ことが多い中で、どう向き合えばよいかを学ぶ貴重な機会となった」と述べた。

夕食懇談会は、中部各県のご当地クイズが披露され、笑いや歓声が飛び交い、教団や地域を超えた交流が深まるひとときとなった。

翌8日朝、参加者はグループごとに名古屋城を散策し、歴史や文化に親しみながら互いの理解を深めた。

午前11時半から、立正佼成会名古屋教会で閉会式。互いの良いところを見つけて書き出す「グッドポイントツリー」の作成や教団別礼拝、感想発表が実施され、「教えは異なっていても目的は同じ」「他宗教の方々との出会いを通して、自教団での活動の原動力を得た」などの声が寄せられた。

新宗連 総支部協議会

「すべてのいのちを尊ぶ世界」石倉理事長が講演
神奈川

神奈川県協議会(落合雅史議長)は6月29日午後1時半から、横浜市の立正佼成会横浜普門館で「令和7年度平和学習会」を開催。新宗連の石倉寿一理事長が「すべてのいのちを尊ぶ世界の実現を」と題して講演した。石倉理事長は大学1年の時に新宗連青年会の東南アジア青年平和使節団(アジア懺悔行)に参加、タイやミャンマーなどで慰霊を重ねた体験が信仰の原点になったと振り返った。

特に、30代で訪れた中国の南京大虐殺記念館で受けた衝撃や、平和使節団派遣を重ねてきた経験を通じ、「前事不忘、後事之師」との思いを深めてきたと語り、「日本人として加害の歴史を忘れず、二度と戦争を起こさぬ世界を築くことが使命」と力を込めた。

さらに、中東やウクライナの紛争に触れ、命の危険にさらされる人々に思いを寄せつつ、「人として生まれ、寿命を全うできる尊さを改めて考えたい」と訴えた。また、自らの子育ての一場面を引き合いに出し、別の角度から物事を見つめる大切さを説いた。

最後に、「新宗連は、教えの違いを超えて協力できるかけがえのない場」と述べ、「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現に尽力する決意を示した。

講演後、参加者は「私にできる平和」をテーマに意見を交わし、平和への決意を語った。

「生きづらさ」を人権の視点から考察―学習会
四国

四国総支部(小坂匡弥会長)は6月21日午後1時から、高知県高知市の立正佼成会高知教会で令和7年度総支部学習会をオンライン併用で開催した。「人権意識の変化と生きづらさ」をテーマに、新宗連事務局長の大滝晃史氏が講演した。

大滝氏は自然権思想や世界人権宣言、日本国憲法に基づく平等権と「個人の尊厳」の歴史的背景や変化を詳述。東北大学名誉教授の辻村みよ子氏の見解を引用し、憲法13条の「個人の尊重」が利己主義と誤解されやすい点や、人権教育制度の未整備を指摘した。

現代の課題として、「ビジネスと人権」や少子化問題、ジェンダー格差と出生率の関連を例示し、個人の生きづらさや社会不安との関係を強調した。

また、新宗連の「信教の自由」の解釈の変化に触れ、個人の「信じる自由」と「信じない自由」を尊重することが、主体的な信仰心や宗教間の相互尊重、多様な価値観の共存を促すと説明した。

続いて、心理カウンセラー・みきいちたろう氏の見解をもとに、生きづらさは社会構造に起因し、個人責任の押しつけが悪循環を生むことを指摘。解決策として、尊厳回復を促す「エンパワメント」と対等な寄り添い支援の「ビフレンディング」を紹介した。

講演後はグループ討議と質疑応答が行われた。

夕張炭鉱殉職者慰霊供養―遺族が体験発表
北海道

北海道総支部は7月26日午前10時半から、夕張市の北炭夕張新炭鉱慰霊碑で「夕張炭鉱殉職者慰霊供養」を執り行った。新宗連の「すべてのいのちを尊ぶ世界」実現推進事業の一環。

体験発表に立った飯野多巳江さん(立正佼成会)は、44年前に発生したガス突出事故により、夫を含む93人が犠牲となったことに触れた。事故後、坑内では火災が収まらず、鎮魂のサイレンとともに注水されたという悲惨な出来事を、言葉を詰まらせながら語った。最後に「主人の五十回忌を迎えるまで、この地で怠ることなく供養を続けていきたい」と述べた(写真)。

続く教団別礼拝では、松緑神道大和山、円応教、加納太霊教院、立正佼成会がそれぞれの礼拝形式で慰霊と供養の誠を捧げた。

閉会後、参加者が一斉にシャボン玉を放ち、少年たちは太鼓を響かせる中、炭鉱で亡くなった御霊に追悼の思いを寄せた。

令和6年度事業報告と決算案を承認
新宗連評議員会

新宗連(石倉寿一理事長)は6月26日午後2時から、東京・代々木の新宗連会館を主会場にオンラインを併用して、第33期第1回評議員会を開催した。

仙波達治評議員を議長に選出し、議事に移り、令和6年度事業報告書案と同決算書案について、それぞれ審議を行い、両案ともに原案通り承認した。次に第34期役員等候補選考委員会の委員の選任についての審議を行い、5人の委員を選任した。

報告事項に移り、6月6日に開催された第33期第4回理事会で報告されたトピックス等について各担当者が説明した。

評議員会終了後には、信教の自由委員会の武藤亮飛委員(玉光神社宗教心理学研究所所長代行)が講師を務め、「新宗連の『信教の自由』を考える―他団体との比較を通して」をテーマに講演し、意見交換を行った。

今後の府県協活動、青年会交え意見交換
近畿

近畿総支部(高城泰志会長)は7月7日午後1時から、大阪市のホテルで「令和7年度総会」を開催。総支部・協議会役職者ほか新日本宗教青年会近畿連盟(青近連)役員も参加した。

拡大総務会に続いて、各府県協議会及び青近連の過去10年間の活動をそれぞれ発表。あわせて青近連からは、青近連発足70周年事業を通し、今後の活動目標を「過去現在に学び、共に考え、未来へ繋ぐ」と定めたことが発表された。

意見交換会に移り、コロナ禍を経た各府県協議会の現状を踏まえ、持続可能な活動の在り方について意見を交わした。「組織にとらわれず、時代に合わせた活動が必要」、「活動が難しい府県協議会については、総支部を中心とした活動への移行を検討しても良いのではないか」などの意見があがった。この後、石倉寿一・新宗連理事長(近畿総支部総務)が所感を述べた。

3総支部で総務会

新宗連各総支部は、6月6日の第33期第4回理事会の開催を踏まえて総務会を開催し、理事会の決定事項等を共有したほか、今後の総支部協議会活動や各教団の活動、課題等について意見・情報交換を行った。概要は下記の通り。

九州総支部(力久道臣会長)―7月8日・総務会(立正佼成会佐賀教会/オンライン)

中部総支部(田中庸仁会長)―7月11日・総務会(立正佼成会名古屋教会)

北関東総支部(新井光興会長)―7月16日・総務会(オンライン)

ユースフォーラム2025
「笑い」テーマに学び交流
新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は6月7、8日、「ユースフォーラム」を開催した。中部連盟受け入れのもと名古屋市で、「TUBEだよ、全員集合!仲間と熱く、絆で強く、みんなで歩くマコトの道」をテーマとした。

7日は市内のホテルで、〝Wマコト〟こと中山真氏・中原誠氏を講師に迎え、「安心×信頼=居場所」と題して講演が行われた。NSC(吉本総合芸能学院)出身で、漫才活動を経て放送作家やイベントMCとしても活躍する両氏は、吉本お笑い総合研究所での研究をもとに、「笑い」を活用したコミュニケーション術について語った(写真)。

まず「お笑い」と「笑い」の違いについて、「お笑い」は芸人が娯楽として提供するものであるのに対し、「笑い」は人と人との信頼関係を築くコミュニケーションの手段であり、人を輝かせる力があると説いた。

人気お笑い芸人の具体例を取り上げながら、観察力、タイミング、言葉の選び方、間の取り方といった観点から分析。こうした技法を日常の人間関係にも応用できるものとして紹介した。

講演ではグループワークも行われ、参加者は学んだコミュニケーション術を実体験。ある参加者は、「携帯などで顔を見ることなくコミュニケーションを取ることが難しい」と述べた。

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします (50音順)

宗教法人 阿吽阿教団本部教会
東京都港区高輪二丁目一番十三号
電話 (三四七三)〇五二八番

宗教法人 大神教
管長 西野延和
〒633―0001 奈良県桜井市三輪一一九八
電話 〇七四四―四二―六〇五七

宗教法人 神ながら教
教主 水野富久子
役員一同
名古屋市東区徳川一丁目15番18号
電話 (九三五)〇一三八

宗教法人 救世真教
会長 新井光興
顧問 新井三知夫
群馬県高崎市箕郷町中野二九二
電話 〇二七―三七一―三六三九
FAX 〇二七―三七一―七一三二

宗教法人 現證宗日蓮主義佛立講
講主 藤井日男
〒513―0809 三重県鈴鹿市西条二丁目三―六
電話 〇五九(三八二)〇四四一
FAX 〇五九(三八二)〇四四一

修養団捧誠会
総裁 出居徳久
会長 青木正孝

円応教
教主 深田充啓
兵庫県丹波市山南町村森一―一
電話 (〇七九五)七七―〇四三〇(代表)

宗教法人 加納太霊教院
院長 加納理孝
〒074―1273 北海道深川市音江町音江七五七番一号
電話 〇一六四―二五―一七八六
FAX 〇一六四―二五―一七九〇

宗教法人 擯営界教団
法主 林玄光
大阪府交野市郡津三丁目四十七番十三号
電話 (〇七二)八九一―一一五八

解脱会
法主 岡野英祥
法嗣 岡野孝行
理事長 岡野英夫
〒160―0007 東京都新宿区荒木町四番地
電話 〇三(三三五三)二一九一
FAX 〇三(三三五三)三〇五五

思親会
会長 飯島法道
二五九―一一〇二 神奈川県伊勢原市子易一四五九
電話 (〇四六三)九一―三一一一(代)

松緑神道大和山
教主 田澤清喜
代表総務 茶谷助
青森県東津軽郡平内町外童子字滝ノ沢一二ノ一三

「世の中の道具」の使命で
第107回立教祭
円応教

「ご親教」を行う深田教主

円応教（深田充啓教主）は7月13日午後1時から、兵庫県丹波市の円応教本部で「第107回立教祭」の祭典を挙行した。

祭典は本殿礼拝所を会場に開催。献上の儀に続き、深田充啓教主が祭文を奏上、参拝者一同で「おつとめ」を執り行った。新規役員の任命が行われ、まと霊符授与式では小坂匡弥理事長が代表して、深田教主から深田千代子教祖の「みたま霊」である「まと霊符」を拝受した。

この後、深田教主が「ご親教」。立教107年にあたり、教祖の「天啓」について教典の「おことば」を引き、教祖が数え年40歳（満39歳）の天啓で「神の使いしめ」として「世の中の道具になる」ことが定められたと教示した。

さらに「私は39歳の時に教主に就任いたしました。右も左もわからない中、教会長先生や布教師、信者様や役員の先生方の誠の心があればこそ、私も御教祖様のおっしゃる『世の中の道具に』とのお言葉を胸に、信者様のために働かせていただく使命があるという気持ちで歩んでまいりました。まだまだいろいろな目標がございますが、信者様に喜んでいただけるよう頑張らねばという一心です」と説いた。

最後に立教記念歌を斉唱し、祭典は終了した。

教祖の精神を継承
開基116周年・教祖祭典
加納太霊院教

教祖生誕を祝し加納院長が式辞

加納太霊教院（加納理孝院長）は6月22日午後1時から、北海道深川市の太霊殿で「開基116周年・教祖祭典」を厳粛に斎行した。

この祭典は、教祖・加納包球の誕生日（6月15日）にちなみ、生誕を祝うとともに歴代院長の遺徳を顕彰し、感謝を捧げる恒例行事。

祭典は、入倉幸四郎理事の開式の辞に始まり、祭主を務めた加納理孝院長が修祓と教祖祭詞を奏上。続いて参会者一同で「礼拝之詞」「病気平癒祈願詞」を奉読した。玉串奉奠では祭主、院長夫人、役員理事に続き、参列者全員が神前に拝礼した。この後、信徒総会が開催された。

式辞に立った加納院長は、教祖・加納包球の人物像に触れた。包球は日清・日露戦争を経験した職業軍人であり、退役後には「日本を強くするには国民が健康で働くことが肝要である」との信念から教院を開設（1914年）した。その後、太平洋戦争敗戦を経て「敗因は諸外国への知識不足にあった」と考え、81歳からリーダーズダイジェスト誌を購読し続けた逸話を紹介し、「高齢にあっても限界と諦めずに現実を認めたうえで努力する手本を示された」と語った。

教務報告では、今年10月26日に先代院長・故加納包誠師の25年祭を予定していることや、祭典委員の浅沼重宏氏が責任役員理事に就任したことを報告した。

結びにあたり、今春から庭園整備に奉仕する土橋健次氏の発声により参列者一同で万歳三唱を行い、祭典は盛会裏に閉式した。

第59周年立教祭
人の心の乱れ直さん
救世真教

救世真教（新井光興会長）は8月3日午前10時から、群馬県高崎市の本部聖地で「第59周年立教祭」を執り行った。

式典はみろく太鼓の響きとともに開幕。「誓い」「信条」「行動指針」の唱和に続き、新井光興会長が斎主として「立教祭祝詞」を奏上し（写真）、斎主と参拝者代表による玉串奉奠が行われた。「天津祝詞」と「立教祭御歌」の奉唱、教主様に「感謝の礼拝」、万霊位への「供養の礼拝」、「御浄霊」および「真鏡拝読」が執り行われた。

この後、ビデオ「建設の喜び」を上映。1970（昭和45）年より、本部聖地の開拓が始まり、信者一丸となって道路造り、さまざまな建物および諸施設の建設、救世観音像建立、小野田松造教主御墓所造営までの15年間の様子を鑑賞した。

その後、新井会長による「御教え」があり、ビデオを視聴しての所感を述べた。とりわけ立教祭御歌三首のうち第二首目の「天変地異が続かる世にあれば人の心の乱れ直さん」については、近年頻発する自然災害の背景には人心の乱れがあると指摘し、「信仰心を持つ人が一人でも多くならなければならない」と説いた。また、真鏡拝読における「観自在の観」とは平易に言えばバランス、程を守ることと解説した。

最後に「新宗連祈りのことば」唱和、「教団歌」斉唱が行われ、閉幕した。

第36回光まつり
先祖への供養が暮らしの安定に
大和之宮

大和之宮（安食克己代表役員代務者）は7月13日午前10時から、山形県山形市の本部で「第36回光まつり」を斎行した。

信徒会館3階の広間に阿弥陀如来と釈迦如来、寿光観世音菩薩を祀り、安食克彦祭司長が導師となり祭儀を執り行い、参列者と共に読経した（写真）。

祭儀を終え、安食祭司長があいさつ。「本年も信徒各家庭の先祖を供養させていただいた。今の自分の身があるのは、先祖がいたおかげ。お盆も近いので、一人ひとり先祖を迎えて祈りを捧げていただきたい。それが家庭や暮らしの安定に繋がる」と説いた。

この後、参列者一人ひとりが焼香し、希望者には「守護仏」が授けられた。

比叡山宗教サミット38周年
「世界平和祈りの集い」
8月4日

比叡山宗教サミット38周年「世界平和祈りの集い」が8月4日、滋賀県大津市の天台宗総本山・延暦寺で開催され、宗教者や関係者ら約450人が参集した。

延暦寺会館で行われた「平和の式典」では、天台宗の細野舜海宗務総長の開式の辞に続き、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）代表委員の田中熙巳氏が「核兵器も戦争もない人間社会を」と題して講演。原爆投下の惨状を証言し、「被爆者の声は過去ではなく未来への道しるべ。唯一の被爆国である日本こそ核廃絶の先頭に立つべきだ」と訴えた。この後、日本ユニセフ協会にユニセフ支援金が寄託された。

一隅を照らす会館前の「祈りの広場」での「平和の祈り」では、青年代表が「比叡山メッセージ」を朗読し、新日本宗教団体連合会（新宗連）の石倉寿一理事長をはじめ、日本宗教連盟協賛5団体、日本ムスリム協会、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会、世界連邦日本宗教委員会の各代表、天台宗の藤光賢座主が登壇し、参列者全員で平和への祈りを捧げた。

藤座主は主催者代表としてあいさつに立ち、「真の平和とは、自己主張を超えて他者やすべての生命と慈しみをもって共生すること」と語り、終戦80年を迎える日本が核廃絶と非暴力社会の実現に向けて先導すべきと訴えた。

このほか、ローマ教皇庁や世界仏教徒連盟から寄せられた平和メッセージも紹介し、延暦寺の獅子王圓明執行が閉式の辞を述べた。

戦争を超え、和解へ——
第3回東京平和円卓会議

「戦争を超え、和解へ」をテーマに第3回東京平和円卓会議が7月1日から3日まで、東京都内のホテルで開催された。

世界宗教者平和会議（WCRP）の各国諸宗教評議会の代表や紛争地域の宗教者、政府関係者ら12カ国・地域から約120人が参加。WCRP国際委員会、同日本委員会、国連文明の同盟（UNAOC）が共催した。会議は紛争下の宗教指導者が対話と和解を進め、解決への道を探ることを目的とした。

開会式では杉谷義純・日本委会長が「対話と協力こそ平和の鍵」と訴え、フランシス・クーリア・カゲマ国際委事務総長も「祈りだけでなく行動で和解を」と呼びかけた。会期中は複数のセッションや、国会議員との討議が行われ、紛争地出身の若者を育てる「諸宗教青年平和交流プログラム」の実施も発表した。

閉会式では平和の祈りが捧げられ、声明文を採択。宗教指導者は赦しと和解を促す橋渡し役として行動し、女性の平和貢献や軍縮、人道支援、避難民支援、青年交流を推進すると表明。「東京平和プロセス」として停戦や国民対話の推進など共同行動計画を明記した。

新刊紹介

森岡清美の宗教社会学
―その検証と継承
大谷栄一・寺田喜朗　編

森岡清美（1923～2022年）は、日本の宗教社会学と家族社会学のパイオニアであり、徹底した資料調査とフィールドワークに基づく実証研究のスタイルで、長年、学会を牽引した。新宗連でも初期の教団人セミナーなど、度々講演や寄稿を行っている。

本書は、森岡宗教社会学の特徴と軌跡（総論）、森岡の初期からの主要研究テーマである〈真宗教団と「家」〉研究（第1章）、神社研究（第2章）、キリスト教研究（第3章）、先祖祭祀研究（第4章）、新宗教研究（第5章）をそれぞれ扱っている。この他、7本のコラム、資料など充実した内容からなる。

以下、第5章の寺田喜朗論文をもとに、森岡の新宗教研究の概略を紹介する。森岡は昭和40年代中頃以降、立正佼成会の学術研究所の講師を務め、妙智會教団の調査を経て、「かつての偏見が解消したばかりでなく、ここにこそ宗教が活きて働いているのではないかとさえ考えるに至った」という。森岡は、欧米のdeprivation（剝奪、喪失などと訳される）理論を修正しつつ、新宗教への入信過程を論じた。その後、天理教、金光教等を事例として、新宗教の教祖をM・ウェーバーのカリスマ論をもとに研究したのを経て、森岡の新宗教研究の代表的成果である宗教組織論を公表した。

森岡によれば、日本の宗教（土着宗教）は、それぞれの組織が確立した時代の社会構造に基本的に規定されているとして、戦後組織化が完了した新宗教の多くは布教・世話関係をもとにした「おやこモデル」になったと分析している。その後、一連の新宗教研究を体系化、集大成したものとして、立正佼成会の教団ライフサイクル論的研究がある。また、より一般的な議論として、社会変動で解体したイエ・ムラなどに代わる新しいコミュニティとして、新宗教が有効だったというという論考も紹介されている。（法藏館、四六判、348頁、3520円）

〈わたし〉を捨てる。
―山岡鉄舟に学ぶ「無敵」という生き方
平井正修　著

「自己あれば敵あり、自己なければ敵なし」―江戸末期の幕臣・山岡鉄舟が晩年に遺した言葉が本書の主題だ。

鉄舟が開創した臨済宗全生庵（東京都台東区）の住職・平井正修氏は、その生涯と思想を丹念にたどり、「自己とは何か」という根源的な問いに向き合う。

江戸城の無血開城を導いた立役者であり、剣の達人でもあった鉄舟。彼がたどり着いた境地は「無刀流」。

「敵」とは外の誰かではなく、自らの内に潜む煩悩や恐れ。剣で倒すことが強さではなく、己の心を制し、弱さと真摯に向き合うことこそ真の無敵と説く。

著者は彼の思想を現代人への指針として提示する。煩悩から完全に解放されることを理想とするのではなく、煩悩と向き合い、翻自律的に生きようとする姿勢こそが大切だと強調する。

情報があふれ、他者の視線や評価にさらされ続ける現代社会において、私たちはいかにして「わたし」を見失わずに生きていけるのか。本書は禅の実践と鉄舟の思想を通じ、その問いに静かに深く切り込む。

注目すべきは鉄舟が晩年に遺した「修身二十則」。「嘘を言うべからず」「恩を忘れるべからず」――平明な言葉ながら、己を律し鍛え抜こうとする精神がにじむ。仏教の五戒にも通じ、自らの内面と誠実に向き合う規範として位置づけられる。

「〈わたし〉を捨てる」とは自己放棄でも無責任でもない。煩悩を抱えつつも超えていこうとする中に、誠実で自由な生き方の可能性がある。鉄舟に敵や嫌う人がなかったとされるのも、あらゆるものを包み込む「融通無碍（むげ）」の境地に至った証しだろう。

SNSなどで他人の評価に揺れやすい今、本書は「〈わたし〉とは何か」という普遍的かつ切実な問いを私たちに投げかける。

最も身近で、最も厄介な存在である「自分」とどう向き合い、折り合いをつけて生きるか。その静かな問いは混迷の時代にあって力強く、温かく響いてくる。

（佼成出版社、四六判、152頁、1760円）

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします　（50音順）

人にしんせつ　地球に感謝
宗教法人　真生会
会長　田中庸仁
総本山真生寺
住所　岐阜市彦坂一七八
電話　（〇五八）二三五―七三〇四

善隣教
教主　力久道臣
福岡県筑紫野市原田
電話（〇九二）九二六―一〇一〇（代）

大慧會教団（だいえいかいきょうだん）
〒599-8126
大阪府堺市東区大美野142―14
TEL　072(236)1601
FAX　072(237)3107
URL　http://www.daiei-kai.jp

大日如来様御奉戴の
宗教法人　大法輪台意　光妙教会
大日如来様御聖業奉讃会

一人ひとりが
神と出会い
一人ひとりが
神を現わす
玉光神社

宗教法人
天顕山　晃妙寺
住職　松本晃芳
役員一同
大阪府枚方市招提平野町四ノ一四
電話　〇七二―八五七―七四五六番

崇教眞光
SUKYO MAHIKARI
〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 2-596-1
TEL 0577(34)7008

宗教法人　祖神道教団
天宮神宮　西宮市山口町船坂一三一九
TEL　〇七八（九〇三）二〇〇二

宗教法人
大日然教

一切を生かす
神随らの教えのにわ
大和教團
倖せへの
道しるべの神を祀る
大國神社

天恩教
教主　鉢呂神龍
理事長　鉢呂金太郎
〒619―1301
京都府相楽郡笠置町
大字有市小字西狭間一番地
電話（〇七四三）九五―二七八六

天光教總本部
大阪市天王寺区東上町八番十四号
電話代表大阪〇六（六七七一）三八八番

終戦80年特集

終戦80年―加盟教団では慰霊、平和祈願の行事等が開催された。いくつかの教団行事を紹介する。

「戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日」式典

立正佼成会

立正佼成会（庭野日鑛会長）は8月15日午前9時から、東京都杉並区の大聖堂で「戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日」式典を厳修した。全国の会員はインターネット配信を通じて各地より参列し、第二次世界大戦をはじめとする全ての戦争・紛争・テロの犠牲者の御霊に慰霊の誠を捧げ、世界平和の実現を祈願した。

式典ではまず、戦争犠牲者と遺族の悲しみに思いを寄せ、平和の尊さを訴える映像作品「平和への誓い」を上映。続いて読経供養が行われ、導師を務めた庭野光祥次代会長による回向文を厳かに奏上した。

読経供養後、光祥次代会長が焼香し、平和の折り鶴を献じた。仏讃歌斉唱の後、庭野会長が登壇。焼香・献鶴し、続いて法話を行った。

法話では、終戦の日を迎えて「戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日」式典を行う意義に触れた上で、道元禅師の「仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは、自己をわするるなり」（『正法眼蔵』）を引用。自己を忘れ、他者と一体となる心こそが仏教徒の歩むべき道と説き示した。また、作家の曽野綾子氏の『透明な歳月の光』の一文を紹介し、年を重ねても学び働き、感謝して生きる尊さを語った。

庭野会長が法話、平和へ向けた精進を説く

さらに「宇宙船地球号」という言葉を紹介。アポロ宇宙船が撮影した球体の地球の写真が世界に与えた衝撃に触れ、「私たちは皆、この小さな星に共に乗り合わせた乗組員」と明示。環境破壊や戦争といった問題は自分自身にも跳ね返ってくるものであり、国や民族の枠を超えて、互いを思いやる地球市民としての意識を高めることが急務と主張した。その上で「共に生きていく一人ひとりであることをしっかりと自覚し、精進させていただくことが大切」と呼びかけた。

最後に、自らの学童疎開の体験や特攻隊員が母に宛てた手紙を紹介し、戦争がいかに人の命と生活を奪うかを述懐。「こうした犠牲の上に今日の平和があることを決して忘れてはならない」と訴えた。

平和祈願祭・8月例月祭

自覚反省、心の平安で世界平和を

円応教

円応教（深田充啓教主）は8月3日午後1時から、兵庫県丹波市の円応教本部で「平和祈願祭・8月例月祭」の祭典を挙行した。

深田充啓教主が平和への祈りを込めた折り鶴が、小坂匡弥理事長により奉納され、全国の信者から寄せられた折り鶴が青少年信者代表により献上。「おつとめ」中にも信者が折り鶴を献上した。終戦80年ビデオ放映の後、教会長任命式が行われた。

「おつとめ」の中、折り鶴が献上された

深田教主は「御親教」で終戦80年にあたり、「今日は戦争で犠牲となられた方のご冥福と悲惨な戦争を二度と繰り返さない世界平和への祈願を捧げられると思います。日本は被爆国ですが、戦争の加害者であることも忘れてはなりません」と述べた。

教典97項の「なんでも元が大事ということは　何に限りなし　また元興したるものが判じ致しますことをお待ち　心穏やかに　日に日のお世話願います」を解説。生かされている一番の「元」は御教祖様（深田千代子師）、ご先祖様のお陰として、お益を迎え、「孝養奉仕をし、祖先崇拝、報恩感謝の心で御教祖様、ご先祖様への感謝のお参りをさせていただきましょう」と述べた。

日課勤行文の自覚反省懺悔文について解説し、「心を落ち着けて、毎日の生活の中で自覚反省をし、善の道を歩み人様と協調していく中に、自分だけではなく周りも幸せになり、それが心の平安となって、ひいては世界平和につながっていきます」と説いた。

戦没者うら盆供養

絶対非戦と世界平和の誓い、新たに

妙智會教団

妙智會教団（宮本惠司會長）は7月14日午後1時から、東京・九段の国立千鳥ケ淵戦没者墓苑で「戦没者うら盆供養」を厳修した。同供養は墓苑創建の翌年1960（昭和35）年から毎年行われているもの。

当日は、戦没者の遺骨を納めた六角堂正面と増設納骨室前に、ほおずきや季節感あふれる花を供え、青年部員による献灯・献華・献供の儀が行われた。

宮本會長が六角堂の導師席に着座して「ご祈願」。「妙智會がこの墓苑でうら盆供養をさせていただくのは、平和の礎となられた戦没者に感謝を捧げるとともに、日本のみならず、全世界の戦争犠牲者のご成佛を心から念じ、戦争を風化させることなく、子々孫々に語り継ぎ、絶対非戦、世界平和実現の誓いを新たにさせていただくためでございます」と奏上した。

この後、参列者一同で戦没者の成佛を祈り読経、心から慰霊の誠を捧げた。また、妙智音楽隊による小学唱歌が披露された。

宮本會長が六角堂前に進み出て、あいさつ。「今年は昭和100年、終戦80年にあたりますが、その節目に生を受けているということに大きな使命があると頂戴しております」と説き、宮本丈靖大導師が「日本の戦没者だけを供養すればいいのではない。世界中の亡くなった方たちを供養し、すべての人を救うのが妙智會」と述べていたことを紹介した。

宮本會長は「私は何が何でも、二度と悲惨な戦争をしてはならないと強く思っております。今日この場で世界中の戦没者の方々に対してご供養をさせていただいた私たちは、平等大慧の心をもって、世界中の人々の安寧と幸せを願っていくことが大切です。そして他人に施す、自分以外の方たちに慈悲をかける。これが妙智會の精神であります」と参列者に呼びかけた。

この後、千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会の保松秀次郎理事長から、毎年供養を継続している妙智會教団に対して深甚なる感謝の言葉があった。最後に参列者が焼香。戦没者の諸精霊の成佛を心から念じ、絶対非戦と世界平和の誓いを新たにした。

宮本會長による「ご祈願」

各所で慰霊供養

戦争犠牲者・戦死者の成佛を念じる

大慧會教団

大慧會教団（石倉寿一会長）は毎年、姫路と広島、長崎などで戦争犠牲者・戦死者の慰霊供養を厳修しており、終戦80年にあたる今年も各所で成佛を念じて大乗経典を奉読した。

5月25日に姫路市の手柄山公園で第19回全国空爆犠牲者慰霊祭、同月27～29日に教団役員と職員の研修旅行で鹿児島の知覧・万世・鹿屋の3カ所の特攻基地・飛行場で特攻隊戦死者の慰霊供養。

6月28日には広島平和記念公園で第25回広島原爆犠牲者慰霊祭、7月21日は兵庫県加西市の鶉野（うずらの）平和祈念の碑苑で第11回姫路海軍航空隊戦死者慰霊祭、同月27日は長崎市の原爆落下中心地公園で第34回長崎原爆犠牲者慰霊祭を厳修した。

各地の慰霊祭では献茶や折り鶴の奉納、読経供養が勤められ、「犠牲者の御霊に捧げる言葉」が奏上された。

広島平和記念公園での原爆犠牲者慰霊祭（6月28日）

修行の道徒歩の行

靖国神社と千鳥ケ淵戦没者墓苑を参拝

善隣教

善隣教（力久道臣教主）は8月15日、「修行の道徒歩の行」として、力久道臣教主と東京教会の信徒らが東京・九段の靖国神社と千鳥ケ淵戦没者墓苑を参拝し、戦没者の慰霊と平和祈願を行った。

「徒歩の行」は1984（昭和59）年、先代教主の力久隆積師が「修行の道」として制定し、全国17地域で実施。8月15日に教主と共に東京道場（当時）の信徒が皇居を二周し千鳥ケ淵戦没者墓苑で祈りを捧げたことに始まる。

今年は午前9時に東京・代々木の東京教会から力久教主と信徒らが猛暑のなか「徒歩の行」を開始。11時に多くの参拝者が集った靖国神社を参拝、この後11時半過ぎに千鳥ケ淵戦没者墓苑を参拝し、力久教主が信徒と共に祈りを捧げた。

千鳥ケ淵墓苑で祈りを捧げる

千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会理事長 保松秀次郎氏に聞く

「祈り」「慰霊」の力を次世代へ

名も知られぬ戦没者と向き合う私の使命

終戦80年を迎え、千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会の保松秀次郎理事長に同墓苑の在り方、今後の展望などについて語っていただいた。

今年、終戦から80年という節目を迎えます。戦争の記憶が急速に風化する中で、「祈り」や「慰霊」が現代社会に果たすべき役割を改めて問い直す時だと私は思います。

今年5月、千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会の理事長に就任いたしました。理事長としての歩みは始まったばかりですが、この墓苑がもつ歴史的・精神的意義、そして祈りの力を広く社会に、そして次世代に伝えていく責任の重さを強く感じております。

千鳥ケ淵戦没者墓苑には、海外で亡くなり、身元が判明せず引き取り手のない約37万柱のご遺骨が安置されています。いわゆる「無名戦没者の墓」であり、宗教宗派を超えた慰霊と平和祈念の場です。しかしその存在は、広く認識されていないのが実状です。靖国神社と比べて、知名度や参拝者数は桁違いに少なく、このままでは30年後、この地を訪れる人がいなくなるのではないかといった危機感さえ抱きます。

毎年5月、墓苑には紫蘭の花が咲きます。紫の花が六角堂に向かって頭を垂れる姿は、まるで祈るようであり、「あなたを忘れない」という花言葉そのものに映ります。名も知られぬ方々が眠るこの場所において、名前がなくとも忘れない―この想いこそが私たち日本人の祈りの形なのではないかと感じています。

亡き人が生き返ることはありません。しかし、私たちがこの地を訪れ、手を合わせることで、自然と感謝の念が湧き上がります。「今の平和はあなた方のおかげです」と祈る人が一人かけがえのない人の祈りを受けるため、私は若い世代への働きかけに力を注いでいます。特に小学生から40代までの世代を対象に、心に残る体験を通じて戦没者と向き合う場をつくっていきたいと思っています。

過去には、都内の小学生が課外授業の一環として墓苑を訪れ、一人ひとりが献花を行ったことがあります。その後、「戦争で亡くなった方への感謝の気持ちが芽生えた」「今度は家族と一緒に来たい」といった感想が寄せられました。こうした体験は子どもたちの心に深く刻まれ、慰霊の本質はこの純粋な心にこそ届くと確信しています。

また、小中学校の教科書への掲載や、高校修学旅行での訪問を目指した働きかけも行っています。SNSやメディア、著名人の来訪など、あらゆる手段を駆使して若い世代への発信を強めていく。「知ってもらうこと」こそ慰霊の第一歩だと思うからです。

終戦80年の今年、墓苑リニューアルを目指し、募金活動にも取り組んでいます。六角堂の中央には、各戦地の土を混ぜて焼成した備前焼の陶棺が安置されていますが、その由来はあまり知られていません。そこで説明板を新たに設置することを目指し、慰霊の意義をより深く理解できる空間づくりを進めています。あわせて、国会議員や各界関係者に参拝を呼びかけ、墓苑から平和のメッセージを社会に発信していきたいと思います。

千鳥ケ淵戦没者墓苑は、静かに過去を見つめる場であると同時に、祈りを通じて未来を形づくる場でもあります。ここには、時空を超えて人と人を結ぶ力があります。亡き人を想い、感謝し、そして今をどう生きるかを考える―その営みこそ、平和の礎となると信じています。（談）

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします　（50音順）

七曜会

妙智會教団
東京都渋谷区代々木三ノ三ノ三
電話（三三七〇）五四〇三（代表）

届く祈り　届く供養
宗教法人 大和教
管長・教祖 保積敬子
宮城県塩竈市南町六―五
電話（〇二二）三六二―一三九二

宗教法人 良辨教本部教会
〒五八一―〇八一三
大阪府八尾市泉町一丁目一三七の三
電話（〇七二）九九六―四九一六番

宗教法人 霊波之光教会 総教司令本部

月読之命奉斎
榊の葉でみる神占
宗教法人 和光道教団本部
大阪市天王寺区上本町二丁目一の二十三
電話　大阪（六七六）一四八〇番

宗教法人 日月神一条
管長 嘉納良樹
吹田市内本町一丁目九の四
電話（六三八一）四一六九番

妙道会教団
会長 佐原慶治
〒543―0034 大阪市天王寺区松ケ鼻町四―三四
電話　〇六（六七七一）二〇五〇

kosei 生かされ、生きるチカラ。
立正佼成会
会長 庭野日鑛
理事長 熊野隆規
〒166―8537 東京都杉並区和田二―十一―一
電話〇三（五三四一）一六一五
https://www.kosei-kai.or.jp

公益財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会
会長 杉谷義純
理事長 戸松義晴
〒166―8531 東京都杉並区和田二丁目七番一号 普門メディアセンター三階
電話（〇三）三三八四―二三三七

公益財団法人 庭野平和財団
理事長 庭野浩士
160―0022 東京都新宿区新宿一丁目一六番九号 シャンヴィラカテリーナ5階
電話　〇三（三二二六）四三七一番
FAX　〇三（三二二六）一八三五番

公益財団法人 新宗連
〒151―0053 東京都渋谷区代々木5―57―10
電話　〇三―三四六八―五五五一